

## ◎安全面を考慮した設計

新庁舎は、柱頭免震構造を採用し、適切な地盤改良を行うことで、防災拠点として機能するための設計となっています。

### 構造計画

1階を免震層とした柱頭免震構造を採用して、2階以上の揺れを大幅に減らします。

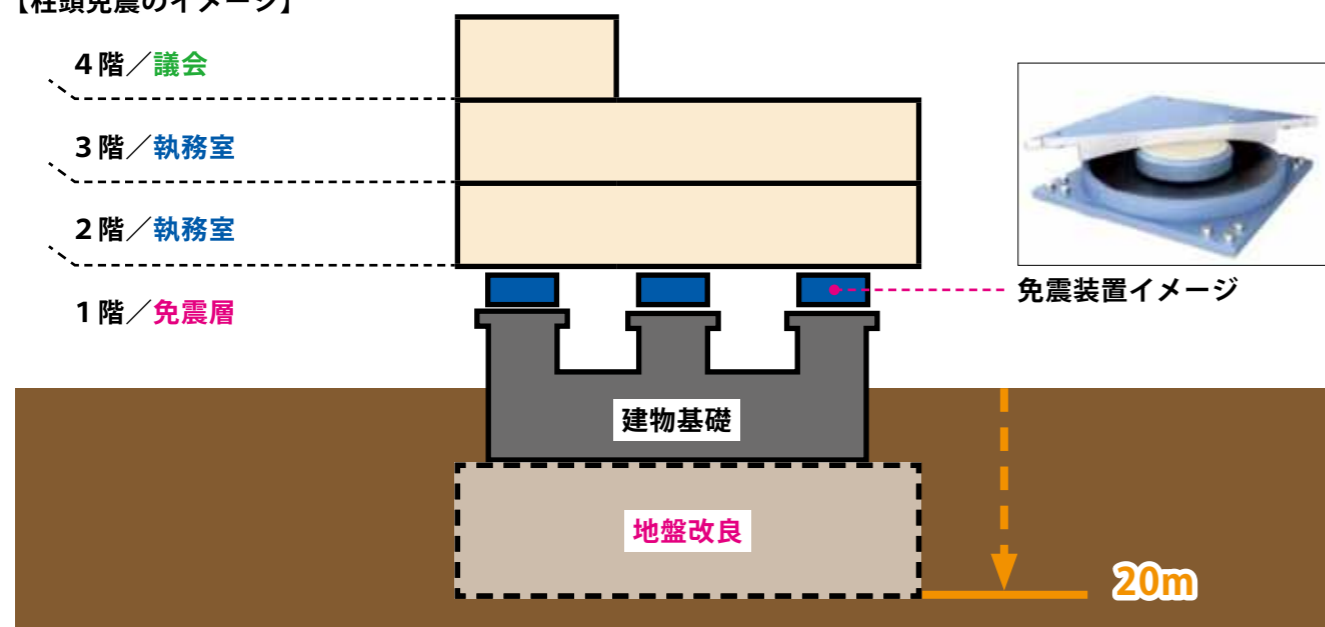
#### 地震の揺れを軽減し、庁舎機能が失われない柱頭免震構造

庁舎機能となる2階以上の揺れを、棚などが転倒しない程度にまで軽減します。災害時も庁舎機能を失う心配はありません。

#### 柱頭免震構造を採用するには、国土交通大臣の認定が必要

指定された専門機関が個別に審査します。審査には地震波解析など、詳細な地盤調査の結果が必要となります。

### 【柱頭免震のイメージ】



#### 地盤改良

地盤の性質を詳細に検証した結果、深さ20mまで砂杭締固め工法という地盤改良を行うことで十分に安全を確保できます。垂水中央病院や市役所新館のボーリング調査の結果からも同じような地盤の特性がわかり、新庁舎建設地だから地盤改良が必要というわけではなく、ほかの土地においても防災拠点として機能させるためには、同様の対策が必要です。

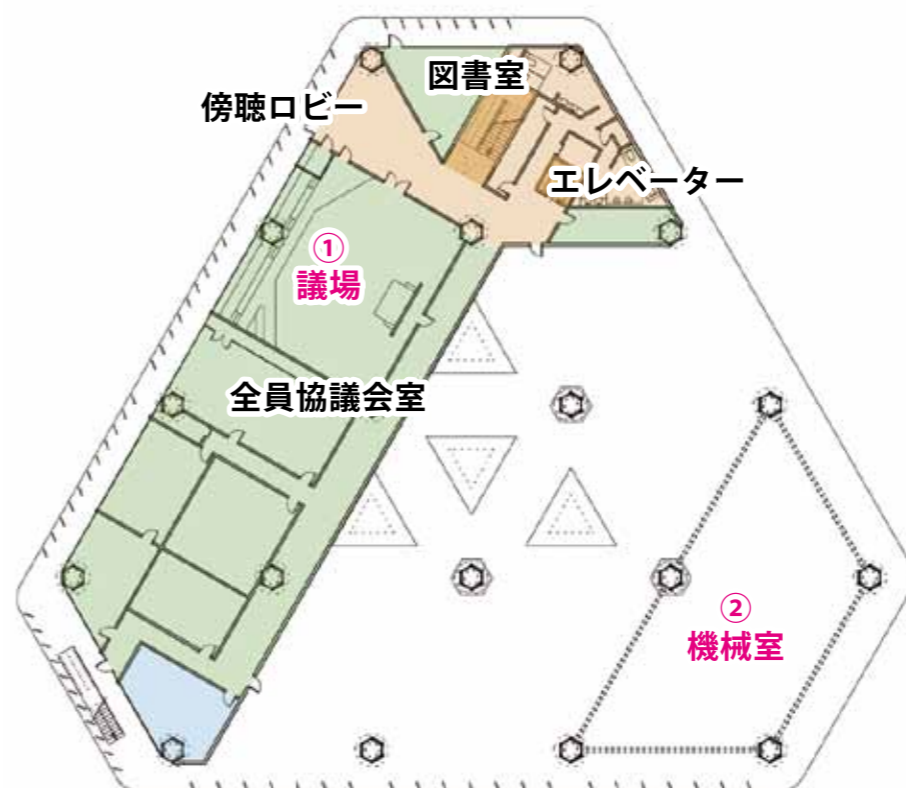


### 3階平面計画

3階は、農林課、土木課、総務課、教育委員会などが計画されています。また、災害対策本部を設けて防災拠点となる機能や設備を確保します。

#### 災害対策本部室

- ▶ 災害時に防災拠点となる機能や設備の確保
- ▶ 通常時は会議室として利用可能
- ▶ 災害時に物資の搬入場所と連携が取りやすい北東側に配置



### 4階平面計画

4階は、議会エリアと屋上に機械室を集約します。

#### ①議場

- ▶ 車椅子の方も利用しやすい傍聴席を設置

#### ②機械室

- ▶ 災害時に3日分の電力と給水量を確保